

実際の流れを紹介

STEP 2 正面と横顔の2パターンで顎のラインまでの顔写真を撮影



検査を始める前の準備として、まず正面と横顔の2パターンで顔写真を撮る。この後にキャディアックス4で計測する下顎の動きの分析データと、撮影した画像を照らし合わせ、理想的な噛み合わせの検討に使用する。

STEP 1 待合室で問診票を受け取り、気になる症状など必要事項を記入



受付を済ませたら、問診票に必要事項を記入する。口腔内にとどまらず、全身で気になる症状なども書いておくと、診断のヒントにつながることも。待合室は、開放感がありながらもゆったりとくつろげる雰囲気が魅力。

STEP 3 骨格の状態などを把握するため、2種類のレントゲン写真を撮影



レントゲン室に入り、側面から頭頸部全体の骨格の状態、歯と歯周組織など顎関節全体をとらえる2種類の機器で、レントゲン写真を順次撮影。これらの画像で、顎の形や上下のずれ、歯の傾斜角などがおおよそ把握できる。

STEP 4 いよいよ顔面に機器を装着。複雑な顎の動きを瞬時に計測



下の歯に部品の一部を固定し、付属のバンドなどで両耳から顔の前面にかけてキャディアックス本体を装着。その状態のまま、医師の指示に従って下顎を上下左右に動かす。計測はおおむね20分程度で終了する。

STEP 5 計測結果について説明を受け、今後の治療方針をカウンセリング



診療室に備え付けの大画面モニターを見ながら、計測データをもとに、現状での噛み合わせの問題点について説明を受ける。実際の顎の動きを3Dアニメーションで表示することもでき、一般の患者にもわかりやすい。

噛み合わせ治療

顎関節機能を正しく診断
口や全身の病気リスクの軽減につながる

つらい偏頭痛の原因かも？
自分の噛み合わせの状態が
とても気になっています。

私がレポートします /



伊藤 牧さん
35歳/会社員/都内勤務

最 近、偏頭痛に悩まされていて知人に相談したところ、噛み合わせが原因で頭痛が起これることもあるらしいと聞き、これまで特に意識することのなかった自分の噛み合わせがどんな状態なのか、とても興味があります。噛み合わせの問題点を探る最先端の測定機器を使った検査について、先生からじっくり聞いてみたいと思います。

今回行ったのは

のぶ：デンタルクリニック



上野毛駅から徒歩10分。中でも高度なインプラント治療に定評があり、国内にとどまらず、海外から治療に訪れる患者もいるほど。栄養学、免疫学なども踏まえ、歯科の視点から全身の健康維持に向けた多彩なアプローチを実践している。

Add: 世田谷区中町4-17-9 粕谷ビル1F
Tel: 03-5760-4618

Link P000

素朴な疑問 Q&A

Q 噛み合わせが悪いとどんなトラブルにつながるのですか？

A 口を開けると顎に痛みが出たり、キバキと音が鳴る顎関節症をはじめ、度を越した強い歯ぐきしりや食いしばりによる詰め物やかぶせものの破損、天然歯が欠けるといったトラブルが起これやすくなります。歯そのものに部分的に大きなストレスがかかってしまうことから虫歯や歯周病の進行にもつながります。また噛み合わせが原因で偏頭痛や慢性的な頭痛、肩こりなどの体の痛み、胃腸障害、疲れやすいなど、口の中にとどまらず、全身のさまざまな症状が引き起こされる可能性があります。

Q キャディアックス4とはどのような装置なのですか？

A オーストリアで開発された顎機能咬合診断システムです。顔面に取り付けられた下顎運動機能測定装置によって、上下左右に複雑に動く人間の顎を3次元的に捉え、実際の顎の大きさを上顎と

私が
お答えします



のぶ：デンタルクリニック
小原澤 友伸 院長

東京医科歯科大学総合診療科を経て、2002年に開院。オールオン4開発者のDr.パウル・マロから直接指導を受けたという優れた技術力を駆使し、「オールオン4」「ザイゴマインプラント」といった高度なインプラント手術を数多く手がけるほか、近年は噛み合わせや顎関節症の治療にも注力。

Q キャディアックス4で、従来の噛み合わせ治療がどう変わるのでしょうか？

A 上顎と下顎の形が骨格として決まっている以上、顎はその骨に従った動きしかできません。従来は顎の動きに従って生じる歯の削れ具合から、顎の動きをある程度予測して、歯科医師の経験と勘に基づいて噛み合わせを作っていくしかありませんでした。そうしたアナログな手法では誤差が生じてしまうのは当然。キャディアックス4は、骨の基準点同士を結ぶ最適な角度など、患者の骨格や筋肉の動きに合った理想的な噛み合わせを作るための情報を、厳密に数値で示してくれるのです。

レポートを終えて……

ドクターからのメッセージ

人間は毎日の食事で歯を使い、骨の成長なども経て、自ら噛み合わせを「育てている」といっても過言ではありません。ですから、その方の噛み癖や歯科治療によって、徐々に骨の形や筋肉の動きと合っていない噛み合わせになっていくことも当然あり得るでしょう。膨大なデータが得られるキャディアックス4を使えば、噛み合わせ治療のみならず、オールオン4のような全顎的なインプラント治療も「数値的根拠に基づいた精密治療」として、さらに進化を遂げていくと期待しています。

読者レポーターのコメント

「ういった装置が15年前からあったにも関わらず、これまでの過去の経験や感覚に基づいたアナログ的な手法で実践されていたのだと知り、とても驚きました。キャディアックス4では顎の動きに関する情報がたくさん得られることはもちろん、解析データが画面上に顎のアニメーションとして表示されたり、とても興味深く、「近未来の歯科治療」を見た感じがしました。自分の噛み合わせ治療も、少し真剣に検討してみたいと思います。」

